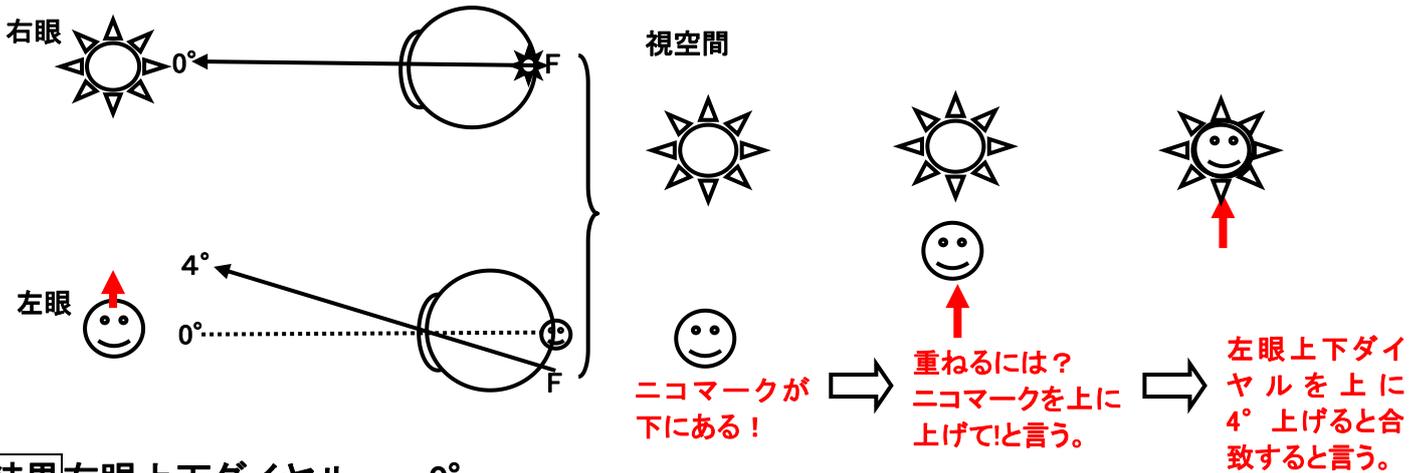


機種の違いによる大型弱視鏡の注意点

イナミ

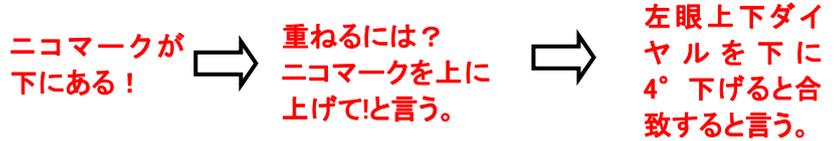
- ①スライドを入れ替える時、垂直偏位角調節ノブも一緒に動くことがあるので注意すること。
- ②上下ダイヤルはイナミの場合のみ、目盛を上に上げるとスライドは下に下がる。
網膜の位置関係に応じた工夫がなされていない。
(その他の機種は目盛を上に上げるとスライドは上に上がる)

イナミ以外の機種の場合でL/R4°の偏位があった場合



結果 右眼上下ダイヤル 0°
左眼上下ダイヤル上に4°で合致 ⇨ つまり L/R 4° というのが本当だが、

イナミの場合



結果 右眼上下ダイヤル 0°
左眼上下ダイヤル下に4°で合致 ⇨ それで L/R 4° となる。
理由は目盛りが不動になっておらず(目盛り0は正常な人の基準位置であるので、動いてしまつては異常がわからない)ダイヤルと一緒に動いてしまう。

- ③融像幅測定時、ADDとABDの目盛とアームが同調していない場合があるので確認すること。

クレメントクラーク

電球の隔壁を下ろしていない時があるので下ろさないと電球が見える。

機種の違いによるスライドの注意点

同時視・融像用スライド

No.が外になるようにいれるのが本当だが、対面状態なら構わない。

立体視用スライド

はんだやのみ透明な文字が重なるように同方向に入れる。

その他はすべてNo.が外になるようにいれるが、対面状態でも良い。ただし凹凸が反対になる。

ガンマ角スライド

イナミのみNo.を内側方向にいれるが暗すぎて不可能。

その他

はんだやのスライドはイナミの器械に入らない。

イナミ・クレメントクラークのスライドはどの器械にも入る。